

● 草の根パートナー型

パートナー型フォローアップ案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	中華人民共和国
2. 事業名	太行山地区における多様性のある森林再生事業
3. 事業の背景と必要性	太行山は山西省と河北省の省境にある大山脈であり、以前は森林があったが、長い歴史のなかで失われ、現在では雨による浸食で土まで失われている。主たる産業は農業だが、環境が厳しいうえに耕地が狭く、貧困のなかに取り残され、環境破壊と貧困の悪循環がつづく。ここはまた北京、天津などの大都市と華北の穀倉地帯の水源にあたり、風砂の吹き出し口でもある。この地域の緑化は中国全体にとっても重要な課題であり、太行山緑化工程、退耕還林など多くの国家プロジェクトが集中しているが、その多くは単一樹種の一斉造林であり、緑化の質の面では大きな問題がある。多様性があり、持続可能な森林再生のモデルづくりは大きな意義をもつ。
4. プロジェクト目標	1) 地域に自生する樹種を中心に持続可能で多様性のある森林再生のモデルを先行プロジェクトを引き継ぎ、継続的に強化する。 2) 生態森林見本園、有用植物見本園（薬草を含む）を新たにつくり、生物多様性を中心に環境教育にも役立つ。
5. 対象地域	山西省大同市霊丘県上寨鎮の自然植物園で多様性のある森林再生のモデルを継続する。交通の便利な大同県周土庄鎮に生態森林見本園、有用植物見本園を建設する。
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	直接的な受益者層は霊丘県・大同県の地域住民で作業に参加する400人、事業実施期間内に訪れる人1400人。間接的にはプロジェクト終了後の成果により啓発される関係者が3年以内に5000人。
7. 期待されるアウトプット及び活動	<アウトプット> <ol style="list-style-type: none"> 1. 霊丘県上寨鎮の自然植物園で、多数の樹種が混在する持続可能で多様性のある森林再生モデルが強化発展される。 2. 交通の便利な大同県に生態森林見本園を建設し、多様性を備えた植林法を普及する。 3. 有用植物見本園（薬草を含む）を建設し、本草綱目など中国の伝統をふまえて、生物多様性の重要性への理解が広がる。 4. 多くの植物の栽培法につうじた有用な人材が育成される。 5. 中国と日本国内で政府関係者や一般市民のなかにこの活動が広く知られる。 <活動> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様性のある森林再生モデルの強化 2. 生態森林見本園の建設 3. 有用植物見本園（薬草を含む）建設 4. 技術向上、人材育成 5. 外部への広報と働きかけ
8. 実施期間	2011年4月～2013年3月 (2年)
9. 事業費概算額	30,000千円
10. 事業の実施体制	認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク 大同市総工会 緑色地球ネットワーク大同事務所
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク
2. 活動内容	大同市での緑化を中心とする環境協力